

# 火災予防

夏・秋編

火災はちょっとした不注意によるものから自然災害によるものまで原因は様々です。これからの時期は、気温の上昇、台風や大雨による風水害が多くなります。未然防止対策をとることで、火災発生のリスクを減らし生命・身体・財産を守りましょう。

市内の過去5年間の火災発生状況（各年1月から12月の件数）

種別 \ 年別	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年 令和元年
建物	24	10	10	14	17
林野	0	1	3	0	3
車両	3	4	4	3	3
船舶	0	0	0	0	0
その他	1	1	5	7	5
合計	28	16	22	24	28

平成31年・令和元年中に市内で発生した主な出火原因

出火原因	件数
電気機器（分電盤、冷暖房機器など）	5
火入れ（野焼きの拡大など）	3
たばこ	2
配線器具（屋内配線など）	2

その他には、放火の疑い、たき火、溶接機・溶断機、内燃機関（エンジン）などの原因がありました。

※火災原因調査では、目撃情報や物的証拠が出ないもの、または複数の要因が疑われ絞り込みが困難な事案もあり、原因が不明となることもあります。

～これからの時期に気を付けておきたいこと～

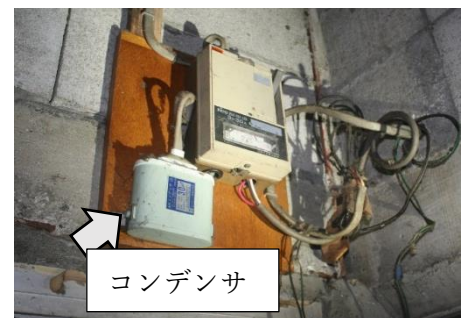
## ① 古い分電盤からの出火防止対策

夏場の高温期になると、建物の分電盤などに取り付けられたコンデンサから出火する火災が発生しやすくなります。コンデンサは、工場、作業所や飲食店などで、工作機械、業務用冷蔵庫等の動力用として使われます。分電盤に古いコンデンサが使用されていないか、確認して早めの交換をお勧めします。

昭和50年より古いものは保安装置が内蔵されていないので、火災に至る危険性が高いため、交換をお願いします。

機器を使用しない時はメインブレーカーを切り、コンデンサに電圧がかからないようにすることを推奨します。

また、コンデンサの交換時期はおおむね10年となっていますので、適切な維持管理をお願いします。



負荷がかかり  
高温により破裂したもの

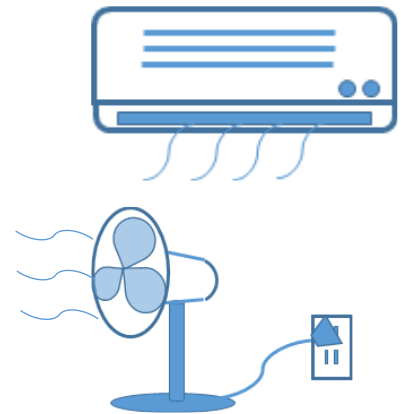
## ② 夏場に使用する電気器具からの出火防止対策

夏場に使用する電気器具で、購入から何十年と経過しているものは、経年劣化によりモーター部分やコンデンサ部分に負荷がかかり、出火する恐れがあります。

- 前に比べて音大きい
- 動きが悪い、不規則
- 冷えない
- 焦げ臭い
- 本体が異常に熱い
- スイッチを入れても動かない

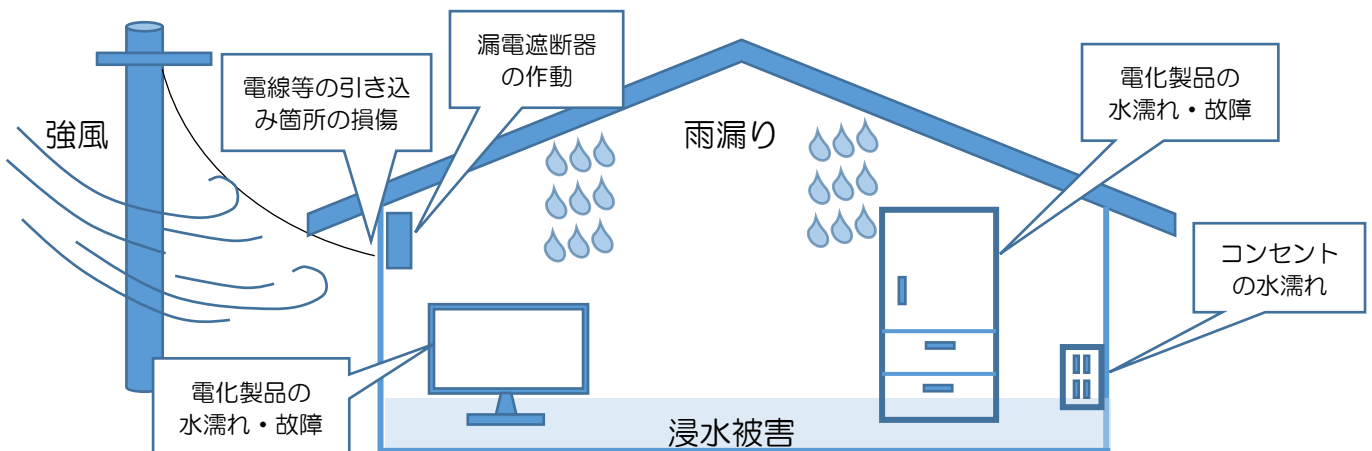
上記のような症状がある場合には、使用を中止してコンセントを抜き、近くの電気店、メーカーのホームページやお客相談センターに問い合わせをしてください。

しばらく使用していなかった電気器具は、コードが痛んでいないか、本体に損傷がないか、ほこりが付いていないかなど、使用する前または定期的に確認をお願いします。



## ③ 停電復旧に伴う出火防止対策

昨年の台風被害では、大規模な停電が発生し、停電復旧後に建物火災が発生しました。地震を含む自然災害等で避難する場合や、しばらく自宅を留守にする場合には、電気器具のコンセントを抜いてブレーカーを落とすようにしましょう。



ブレーカーを入れる際には、家の周囲の引き込み線や屋内の電気器具が損傷していないか、または水に濡れていないかなどの確認をお願いします。

また、一旦水に濡れた電気器具は使用しないようにしてください。

ブレーカーの漏電遮断器が作動している場合には、屋根裏や壁の内側にある電気配線に損傷が疑われますので、漏電遮断器が落ちている場合には電気工事店などに連絡するようお願いします。

**住宅用火災警報器「10年経ったら取り換える！」**  
夜間など就寝中の火災を早期に発見し避難できるよう**住宅用火災警報器の維持管理**もお願いします。

君津市消防本部 予防課  
53-1904